

§3.4 ベクトルの向き

次の定理が成り立ちます。

定理 3.4.1 実ベクトル空間の任意のベクトル \mathbf{a} と \mathbf{b} について、 $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}$ かつ $\mathbf{b} \neq \mathbf{0}$ のとき、

$$\begin{aligned} \mathbf{a} \text{ と } \mathbf{b} \text{ とが成す角度が } 0^\circ &\iff \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|, \\ \mathbf{a} \text{ と } \mathbf{b} \text{ とが成す角度が } 180^\circ &\iff \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = -|\mathbf{a}||\mathbf{b}|. \end{aligned}$$

証明 ベクトル \mathbf{a} と \mathbf{b} について $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}$ かつ $\mathbf{b} \neq \mathbf{0}$ とする。このとき $|\mathbf{a}| \neq 0$ かつ $|\mathbf{b}| \neq 0$ 。 \mathbf{a} と \mathbf{b} とが成す角度を θ とおく。定理 3.1 より

$$\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|\cos\theta.$$

$\theta = 0^\circ$ ならば、 $\cos\theta = \cos 0^\circ = 1$ なので、 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|$ 。逆に、 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|$ ならば、 $|\mathbf{a}||\mathbf{b}| = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|\cos\theta$ 、 $|\mathbf{a}| \neq 0$ かつ $|\mathbf{b}| \neq 0$ なので $\cos\theta = 1$ 、 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ なので $\theta = 0^\circ$ 。

$\theta = 180^\circ$ ならば、 $\cos\theta = \cos 180^\circ = -1$ なので、 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = -|\mathbf{a}||\mathbf{b}|$ 。逆に、 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = -|\mathbf{a}||\mathbf{b}|$ ならば、 $-|\mathbf{a}||\mathbf{b}| = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|\cos\theta$ 、 $|\mathbf{a}| \neq 0$ かつ $|\mathbf{b}| \neq 0$ なので $\cos\theta = -1$ 、 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ なので $\theta = 180^\circ$ 。(証明終り)

この定理より、ベクトルの向きについて次のように定義します。

定義 実ベクトル空間のベクトル \mathbf{a} と \mathbf{b} について、

\mathbf{a} と \mathbf{b} とが同じ向きであるとは $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|$ となることであり、

\mathbf{a} と \mathbf{b} とが逆の向きであるとは $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = -|\mathbf{a}||\mathbf{b}|$ となることである。

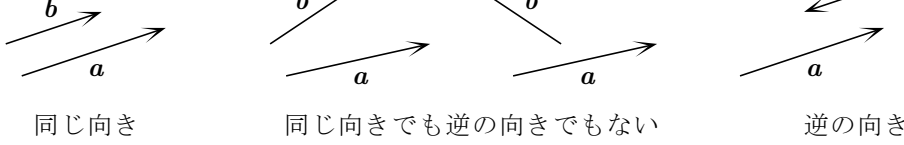
零ベクトルでないベクトル \mathbf{a} と \mathbf{b} について、

\mathbf{a} と \mathbf{b} とが同じ向きであるとは \mathbf{a} と \mathbf{b} とが成す角度が 0° であること

であり、

\mathbf{a} と \mathbf{b} とが逆の向きであるとは \mathbf{a} と \mathbf{b} とが成す角度が 180° であること

です。例えば次のようになります。



以下の定理の証明は後回しにします。

定理 3.4.2 実ベクトル空間の任意のベクトル \mathbf{a} と \mathbf{b} について、

$$|\mathbf{a}| = |\mathbf{b}| \text{ かつ } \mathbf{a} \text{ と } \mathbf{b} \text{ とが同じ向きならば } \mathbf{a} = \mathbf{b},$$

$$|\mathbf{a}| = |\mathbf{b}| \text{ かつ } \mathbf{a} \text{ と } \mathbf{b} \text{ とが逆の向きならば } \mathbf{a} = -\mathbf{b}.$$

定理 3.4.3 実ベクトル空間の任意のベクトル \mathbf{a} 及び任意の実数 k_1 と k_2 について、

$k_1 k_2 \geq 0$ のとき ベクトル $k_1 \mathbf{a}$ と $k_2 \mathbf{a}$ とは同じ向きであり、

$k_1 k_2 \leq 0$ のとき ベクトル $k_1 \mathbf{a}$ と $k_2 \mathbf{a}$ とは逆の向きである。

定理 3.4.3 と定理 1.8.3 とを併せると次のことが分かります：実数 k に対して、実ベクトル \mathbf{a} と $k\mathbf{a}$ とを比べると、

$k \geq 0$ のとき、 $k\mathbf{a}$ は \mathbf{a} と同じ向きで大きさが $|k|$ 倍のベクトルである；

$k \leq 0$ のとき、 $k\mathbf{a}$ は \mathbf{a} と逆の向きで大きさが $|k|$ 倍のベクトルである。

例 平面ベクトル \mathbf{a} の大きさを a

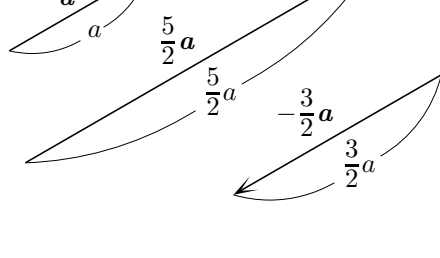
とおくと、例えば右図のように、ベク

トル $\frac{5}{2}\mathbf{a}$ は \mathbf{a} と同じ向きで大きさが

$\frac{5}{2}a$ のベクトルで、ベクトル $-\frac{3}{2}\mathbf{a}$ は

\mathbf{a} と逆の向きで大きさが $\frac{3}{2}a$ のベク

トルです。



終

定理 3.4.4 実ベクトル空間の任意のベクトル \mathbf{a} と \mathbf{b} について、

$$\mathbf{a} \text{ と } \mathbf{b} \text{ とが同じ向きであるならば } |\mathbf{a}||\mathbf{b}| = |\mathbf{b}||\mathbf{a}|,$$

$$\mathbf{a} \text{ と } \mathbf{b} \text{ とが逆の向きであるならば } |\mathbf{a}||\mathbf{b}| = -|\mathbf{b}||\mathbf{a}|.$$

例題 ベクトル平面において、ベクトル $(-2, 3)$ と同じ向きで大きさが 5 であるベクトルを求めよ。

【解説】 ベクトル $\mathbf{a} = (-2, 3)$ と同じ向きで大きさが 5 のベクトルを \mathbf{x} とおく。 \mathbf{a} と \mathbf{x} との向きが同じなので、 $|\mathbf{a}||\mathbf{x}| = |\mathbf{x}||\mathbf{a}|$ 、 $\mathbf{x} = \frac{|\mathbf{x}|}{|\mathbf{a}|}\mathbf{a}$ 。 \mathbf{x} の大きさは 5 なので $|\mathbf{x}| = 5$ 、また $|\mathbf{a}| = \sqrt{(-2)^2 + 3^2} = \sqrt{13}$ 。従って求めるベクトル \mathbf{x} は

$$\mathbf{x} = \frac{|\mathbf{x}|}{|\mathbf{a}|}\mathbf{a} = \frac{5}{\sqrt{13}}(-2, 3) = \left(-\frac{10}{\sqrt{13}}, \frac{15}{\sqrt{13}}\right).$$

終

問題 3.4.1 ベクトル平面において、ベクトル $(4, -3)$ と同じ向きで大きさが 7 であるベクトルを求めなさい。

例題 ベクトル平面において、ベクトル $(5, -3)$ と逆の向きで大きさが 7 であるベクトルを求めよ。

【解説】 ベクトル $\mathbf{a} = (5, -3)$ と逆の向きで大きさが 7 であるベクトルを \mathbf{x} とおく。 \mathbf{a} と \mathbf{x} との向きが逆なので、 $|\mathbf{a}||\mathbf{x}| = -|\mathbf{x}||\mathbf{a}|$ 、 $\mathbf{x} = -\frac{|\mathbf{x}|}{|\mathbf{a}|}\mathbf{a}$ 。 \mathbf{x} の大きさは 7 なので $|\mathbf{x}| = 7$ 、また $|\mathbf{a}| = \sqrt{5^2 + (-3)^2} = \sqrt{34}$ 。従って求めるベクトル \mathbf{x} は

$$\mathbf{x} = -\frac{|\mathbf{x}|}{|\mathbf{a}|}\mathbf{a} = -\frac{7}{\sqrt{34}}(5, -3) = \left(-\frac{35}{\sqrt{34}}, \frac{21}{\sqrt{34}}\right).$$

終

問題 3.4.2 ベクトル平面において、ベクトル $(-2, 5)$ と逆の向きで大きさが 3 であるベクトルを求めなさい。

——— 定理の証明

定理 3.4.2 実ベクトル空間の任意のベクトル \mathbf{a} と \mathbf{b} について、

$$|\mathbf{a}| = |\mathbf{b}| \text{ かつ } \mathbf{a} \text{ と } \mathbf{b} \text{ とが同じ向きならば } \mathbf{a} = \mathbf{b},$$

$$|\mathbf{a}| = |\mathbf{b}| \text{ かつ } \mathbf{a} \text{ と } \mathbf{b} \text{ とが逆の向きならば } \mathbf{a} = -\mathbf{b}.$$

証明 ベクトル \mathbf{a} と \mathbf{b} とが同じ向きとする。 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|$ なので、

$$\begin{aligned} |\mathbf{a} - \mathbf{b}|^2 &= (\mathbf{a} - \mathbf{b}) \cdot (\mathbf{a} - \mathbf{b}) = \mathbf{a} \cdot \mathbf{a} - \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} - \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} + \mathbf{b} \cdot \mathbf{b} = |\mathbf{a}|^2 - 2\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} + |\mathbf{b}|^2 \\ &= |\mathbf{a}|^2 - 2|\mathbf{a}||\mathbf{b}| + |\mathbf{b}|^2; \end{aligned}$$

更に $|\mathbf{a}| = |\mathbf{b}|$ とすると、

$$|\mathbf{a}|^2 - 2|\mathbf{a}||\mathbf{b}| + |\mathbf{b}|^2 = |\mathbf{b}|^2 - 2|\mathbf{b}||\mathbf{b}| + |\mathbf{b}|^2 = 2|\mathbf{b}|^2 - 2|\mathbf{b}|^2 = 0,$$

よって $|\mathbf{a} - \mathbf{b}|^2 = 0$ なので、 $|\mathbf{a} - \mathbf{b}| = 0$ 、定理 1.6.3 より $\mathbf{a} - \mathbf{b} = \mathbf{0}$ 、故に

$\mathbf{a} = \mathbf{b}$ 。

ベクトル \mathbf{a} と \mathbf{b} とが逆の向きとする。 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = -|\mathbf{a}||\mathbf{b}|$ なので、

$$\begin{aligned} |\mathbf{a} + \mathbf{b}|^2 &= (\mathbf{a} + \mathbf{b}) \cdot (\mathbf{a} + \mathbf{b}) = \mathbf{a} \cdot \mathbf{a} + \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} + \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} + \mathbf{b} \cdot \mathbf{b} = |\mathbf{a}|^2 + 2\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} + |\mathbf{b}|^2 \\ &= |\mathbf{a}|^2 - 2|\mathbf{a}||\mathbf{b}| + |\mathbf{b}|^2; \end{aligned}$$

更に $|\mathbf{a}| = |\mathbf{b}|$ とすると、

$$|\mathbf{a}|^2 - 2|\mathbf{a}||\mathbf{b}| + |\mathbf{b}|^2 = |\mathbf{b}|^2 - 2|\mathbf{b}||\mathbf{b}| + |\mathbf{b}|^2 = 2|\mathbf{b}|^2 - 2|\mathbf{b}|^2 = 0,$$

よって $|\mathbf{a} + \mathbf{b}|^2 = 0$ なので、 $|\mathbf{a} + \mathbf{b}| = 0$ 、定理 1.6.3 より $\mathbf{a} + \mathbf{b} = \mathbf{0}$ 、故に

$\mathbf{a} = -\mathbf{b}$ 。(証明終り)

定理 3.4.3 実ベクトル空間の任意のベクトル \mathbf{a} 及び任意の実数 k_1 と k_2 について、

$k_1 k_2 \geq 0$ のとき ベクトル $k_1 \mathbf{a}$ と $k_2 \mathbf{a}$ とは同じ向きであり、

$k_1 k_2 \leq 0$ のとき ベクトル $k_1 \mathbf{a}$ と $k_2 \mathbf{a}$ とは逆の向きである。

証明

$$(k_1 \mathbf{a}) \cdot (k_2 \mathbf{a}) = k_1 \{\mathbf{a} \cdot (k_2 \mathbf{a})\} = k_1 \{k_2 (\mathbf{a} \cdot \mathbf{a})\} = k_1 k_2 |\mathbf{a}|^2.$$

また、定理 1.6.4 より $|k_1 \mathbf{a}| = |k_1||\mathbf{a}|$ 、 $|k_2 \mathbf{a}| = |k_2||\mathbf{a}|$ なので、

$$|k_1 \mathbf{a}||k_2 \mathbf{a}| = |k_1||\mathbf{a}||k_2||\mathbf{a}| = |k_1||k_2||\mathbf{a}||\mathbf{a}| = |k_1 k_2||\mathbf{a}|^2.$$

$k_1 k_2 \geq 0$ のとき、 $|k_1 k_2| = k_1 k_2$ なので

$$(k_1 \mathbf{a}) \cdot (k_2 \mathbf{a}) = k_1 k_2 |\mathbf{a}|^2 = |k_1 k_2||\mathbf{a}|^2 = |k_1 \mathbf{a}||k_2 \mathbf{a}|,$$

よって $k_1 \mathbf{a}$ と $k_2 \mathbf{a}$ とは同じ向きである。 $k_1 k_2 \leq 0$ のとき、 $|k_1 k_2| = -k_1 k_2$ より $k_1 k_2 = -|k_1 k_2|$ なので

$$(k_1 \mathbf{a}) \cdot (k_2 \mathbf{a}) = k_1 k_2 |\mathbf{a}|^2 = -|k_1 k_2||\mathbf{a}|^2 = -|k_1 \mathbf{a}||k_2 \mathbf{a}|,$$

よって $k_1 \mathbf{a}$ と $k_2 \mathbf{a}$ とは逆の向きである。(証明終り)

定理 3.4.4 実ベクトル空間の任意のベクトル \mathbf{a} と \mathbf{b} について、

$$\mathbf{a} \text{ と } \mathbf{b} \text{ とが同じ向きであるならば } |\mathbf{a}||\mathbf{b}| = |\mathbf{b}||\mathbf{a}|,$$

$$\mathbf{a} \text{ と } \mathbf{b} \text{ とが逆の向きであるならば } |\mathbf{a}||\mathbf{b}| = -|\mathbf{b}||\mathbf{a}|.$$

証明 内積の性質より、

$$(|\mathbf{a}||\mathbf{b}|) \cdot (|\mathbf{b}||\mathbf{a}|) = |\mathbf{a}||\mathbf{b}| \{ \mathbf{b} \cdot (|\mathbf{b}||\mathbf{a}|) \} = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|(|\mathbf{b}||\mathbf{a}|) = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|(|\mathbf{a}||\mathbf{b}|).$$

$|\mathbf{a}||\mathbf{b}| = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|$ 、 $|\mathbf{b}||\mathbf{a}| = |\mathbf{b}||\mathbf{a}|$ なので、

$$|\mathbf{a}||\mathbf{b}| = |\mathbf{b}||\mathbf{a}|,$$

$$|\mathbf{a}||\mathbf{b}||\mathbf{b}||\mathbf{a}| = |\mathbf{a}||\mathbf{b}||\mathbf{b}||\mathbf{a}| = |\mathbf{a}|^2|\mathbf{b}|^2.$$

\mathbf{a} と \mathbf{b} とが同じ向きであるならば、 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|$ なので、

$$(|\mathbf{a}||\mathbf{b}|) \cdot (|\mathbf{b}||\mathbf{a}|) = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|(\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}) = |\mathbf{a}||\mathbf{b}||\mathbf{a}||\mathbf{b}| = |\mathbf{a}|^2|\mathbf{b}|^2,$$

よって $(|\mathbf{a}||\mathbf{b}|) \cdot (|\mathbf{b}||\mathbf{a}|) = |\mathbf{a}||\mathbf{b}||\mathbf{b}||\mathbf{a}|$ なので、 $|\mathbf{a}||\mathbf{b}|$ と $|\mathbf{b}||\mathbf{a}|$ とは同じ向きである。 $|\mathbf{a}||\mathbf{b}| = |\mathbf{b}||\mathbf{a}|$ なので、定理 3.4.2 より、 $|\mathbf{a}||\mathbf{b}| = |\mathbf{b}||\mathbf{a}|$ 。

\mathbf{a} と \mathbf{b} とが逆の向きであるならば、 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = -|\mathbf{a}||\mathbf{b}|$ なので、

$$(|\mathbf{a}||\mathbf{b}|) \cdot (|\mathbf{b}||\mathbf{a}|) = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|(\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}) = |\mathbf{a}||\mathbf{b}|(-|\mathbf{a}||\mathbf{b}|) = -|\mathbf{a}|^2|\mathbf{b}|^2,$$

よって $(|\mathbf{a}||\mathbf{b}|) \cdot (|\mathbf{b}||\mathbf{a}|) = -|\mathbf{a}||\mathbf{b}||\mathbf{b}||\mathbf{a}|$ なので、 $|\mathbf{a}||\mathbf{b}|$ と $|\mathbf{b}||\mathbf{a}|$ とは逆の向きである。 $|\mathbf{a}||\mathbf{b}| = |\mathbf{b}||\mathbf{a}|$ なので、定理 3.4.2 より、 $|\mathbf{a}||\mathbf{b}| = -|\mathbf{b}||\mathbf{a}|$ 。(証明終り)